



1月1日現在の中山
世帯数 1,356
人口 3,556

【問い合わせ】
中山公民館報編集委員会
58-5822

常に持ちたい防災意識

昨年、長野県では年初の大雪、9月の御嶽山大噴火、11月の長野県北部の震災と自然災害が続けて発生している。いずれも想定外であり、御嶽山噴火では多くの犠牲者を出している。北部の震災では犠牲者が出なかったのは幸いであったが家屋の倒壊は多く大きな災害であった。

講義では災害の被害を軽減するために、「自助」一人ひとりが自ら取組むこと、「共助」地域や身近にいる人どうしが一緒に取組むこと、「公助」国や地方公共団体などが取組むことなど改めて知ることが多く有意義な講座でした。

松本市の地震から3年半が過ぎ、当時の危機感を忘れつつ或るなか、12月18日公民館主催の「地震への備え」の講座が開催されました。今回は長野県神城断層地震の直後であり、興味深い内容の講座でありました。避ける

11月の長野県神城断層地震では改めて地震の恐ろしさを呼び起こされました。今回の地震は糸魚川静岡構造線の活断層上での発生した地震であり、同じ活断層上にある牛伏寺断層は松本市にあり、30年以内に14%の確率で大きな地震が発生することが予想され

ことが出来ない震災からいかに被害を最小限に食い止めるか、普段みんなが心掛けることは何かという内容であり、タイトルは「みんなで減災」サブタイトルが「あなたにもできる減災！」でした。



震災時の応急用具について

ています。もう一度、地域、個人が地震に対する備えについて考えるよい機会だと思えます。避難所に適した施設は中山には少ない。食料備蓄、防寒対策等大丈夫か。地域で出来ないことは公共団体に要請し、避難所、要援護者優先避難所等の環境整備を行って

要性はあるのでしょうか。検討していく必要があると思います。中山のため池の安全診断は完了しており、現時点で耐震対策の必要な池はないとのことですが、今後ため池の安全管理には注意が必要です。この他にも災害時に発生している各地の事象を参考に、みんなで考え災害発生時に言われる想定外を減らす努力をする時です。牛伏寺断層は私たちの身近なところにあることをもう一度、認識しましょう。

文化庁主催の研修会 中山の歴史を探索

文化庁主催の『歴史文化基本構想』研修会が、11月27日～28日にかけて、松本市で開催されました。全国の文化行政及び歴史まちづくりに関わる職員を対象としたもので、全国から70数人が見え、中山地区で28日に行われた実地研修には、10人が参加しました。

実地研修は、埴原の牧 古屋敷繋飼場跡を起点に、円城寺、埴原神社、蓮華寺、栄珠庵等を経て中山考古博物館に至る総延長5kmのコースで行いました。参加者は、古代からの遺跡や建造物等を巡る中で、個々の歴史的背景を結び、

現在の中山地域が醸成されていくまでのストーリーを推察していました。また、「景色の美しさに感激した」と口々に話している姿も印象的でした。



塩尻へとつながる古道を望む参加者

私自身も、この実地研修に同行し、研修発表を聞く中で、中山に住む私たち自身が、日ごろ見慣れている地域の良さを再認識し、後世へ守り伝えていく事の大切さを実感することができました。

『歴史文化基本構想』とは、地域に存在する文化財を指定、未指定に関わらず、幅広くとらえ的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存・活用していく計画です。文化財保護だけにとどまらず、松本市が今後、歴史文化を生かしたまちづくりを進めていく為の基本的な構想（マスタープラン）となるものです。

シリーズ

『中山の偉人』(3)

なかじまはるやす
中島治康

プロ野球初の三冠王



中島治康は、明治42(1909)年6月に中山村に生まれた。

昭和3年(1928)の第14回全国中等学校優勝野球大会で、松本商業学校の治康は、平安中学との決勝まで5試合を1人で投げ抜いて、優勝投手になった。

松商を卒業後、早稲田大学へ入学、右投げ右打ちの一塁手、外野手として活躍した。

ノンプロを経て、11年に東京巨人軍に入団した。三冠王は現在までに7人(11回)が達成しているが、日本プロ野球初の三冠王は、中島治康である。

巨人の主砲だった治康は、昭和13年の秋のリーグで(試合数38)、打率・361で1位。本塁打は史上初の2ケタの10本(2位が5本)、打点もタイガースの藤村富美男に4点差の38点だった。当時は特別表彰はなく、戦後になって三冠王と認定された。

巨人と大洋までの治康の通算14年間のプロ野球生活で、首位打者2回、最多安打3回、本塁打王2回、打点王4回のタイトルを獲得し、最優秀選手1回、ベストナイン1回の表彰をうけた。

昭和18年、治康は巨人の藤本定義監督のあとを継いで監督に就任した(選手兼任)。

その年には、84試合で54勝27敗3分で優勝、巨人のV5を達成した。

戦後に再開された21年には、治康はふたたび巨人の監督を務めた。26年の開幕から6月まで、2リーグに分かれたあとに大洋球団の監督を務めた。治康の監督成績は、巨人(昭和18、21、22、24)、大洋(昭和26)の通算5年で、302試合、169勝127敗。勝率・571だった。

昭和26年、大洋ホエールズの監督兼選手を最後に、治康は42歳でプロ野球を退いた。現役引退後は、読売新聞社嘱託となり、運動部で主に六大学野球の評論に健筆をふるい、読者の人気を集めた。また、指導者としてアマチュア野球の育成に尽力した。

東京ドーム野球体育博物館内に野球殿堂があり、昭和38年に殿堂入りした治康の名がレリーフに残されている。

治康は、昭和62年4月21日に77歳で亡くなった。

(小松芳郎)

地域とのふれあいで
子どものよさが現れる

中山小学校校長 藤田浩史

子どもの心の奥に潜む本当の「気持ち」や「思い」に迫りたいと願う日々です。別の言い方をすれば、本当の「気持ち」や「思い」が現れる状況をどうつくるか、です。

先日、子どもたちの登下校時の安全確保に尽力いただいている「中山っ子安全・安心見守りたい」の皆様を学校に招待し会を開きました。子どもたちは歌声や自分たちで考えた学校クイズ、手品などを行いました。また、田んぼで作った餅米でもちをついてふるまいました。招待した方々に楽しんでもらい、感謝の気持ちを伝えようとなりました。

地域の皆様との関わることで、子どもたちには「相手意識」が芽生え、授業とは違う一面を見せてくれました。その



「見守りたい」の皆様を迎えて行った「ありがとうの会」

れは、子どもの本当のよさが現れた事でもあったように思います。

学校がひらき、多様な方々とのふれあいや関わりが、子どもたちの姿や気持ちの表出にとってもよいのです。その結果、満足感や成就感、そして自己肯定感の醸成につながっているのです。

今後も地域にひらき、地域の皆様とのふれあいを大切にしていく学校でありたいと思います。よろしくお願いいたします。

埴原東
蕎麦と落語を楽しむ

12月7日(日)に、モデル農家事業の一環として、埴原東農家組合と埴原東公民館の合同で、「簡単な手打ち蕎麦と落語を楽しむ集い」を開催しました。

第1部の簡単でおいしく作れる手打ち蕎麦では、参加者全員が2組に分かれて、講師の百瀬藤男さんと赤羽弘光さんの指導を受けて、蕎麦作りに挑戦しました。実際にやってみると、こね具合により生地が思ったような形にならず、だいたい苦戦しましたが、皆さん、最後にはなんとか形が整って、生地を切るまでに至って、自分が作った分を、



古鉄家ぽんこ

落語会「風まんだら」のお2人の落語を楽しみました。お1人は歌を取り入れ、もう一方は、物語調のとても楽しい落語でした。

第3部の懇親会と蕎麦食味では、前日に打っておいした蕎麦を全員で食べました。蕎麦は別腹と言う様に、皆さんがたくさん食べ、用意した分を完食しました。次期にもつながる良い1日でした。



針伏

おいしいパンを食べたくて、パン作りをしている。粉は国産のものを使って、天然酵母パンを焼く。オーブンが小さいので沢山は焼けないが、上手く焼けるとご機嫌になる。今年は、パンドミー(食パン)を焼けるようになった。中山産の粉も使いたいと思っている。

(T・M)